

ぬいぐるみのようなハヤブサの雛

毎年5月下旬になると、ハヤブサの雛を見るのを楽しみにしている。今年も4か所の営巣地を廻ってみたが、無事に子育てが出来たのは2か所だけでした。

孵化後2週間くらいになると、自分の脚で立ち上がり周囲を見渡すようになります。この頃は真っ白な毛に覆われ、まるでぬいぐるみのお人形さんです。一生の中で今が一番可愛く見える時期でしょう。この可愛らしさもあと10日間くらいで、徐々に白い綿毛（めんもう）が抜け、本来の茶色い羽根が現れます。



全身が白い綿毛で覆われています。

親は近くの高い枝から雛を監視し、カラスなどが近づく気配があると、キーキーキーンと甲高い声を挙げ猛スピードで追い払います。

育ち盛りの雛は巣の縁まで出て、親鳥が運ぶ餌を今か今かと待っている。運が良ければ全員並んでいるところが見られます。



歩き方はまだぎこちない。



大きな目は猛禽類の片鱗を漂わせる。

大仙市内の巣では2羽が生まれ、由利本荘市の巣は3羽が元気に育っています。まもなく元気に大空を飛び回る姿が見られることでしょう。



親が肉の塊を運んできた。



由利本荘市のヒナは綿毛（めんもう）が抜け始め、茶色い羽根が見えています。